ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.

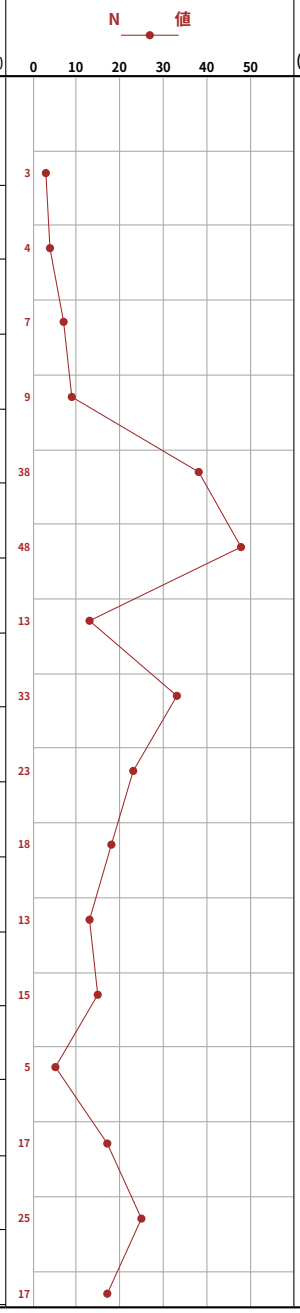
シートNO.

ボーリング名	BL	調査位置				北　緯	36 ° 18 ' 18.0000 "
発注機関	栃木県栃木土木事務所			調査期間	2010-02-19 ～ 2010-02-24	東　経	139 ° 44 ' 12.0000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	22.39 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 25.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	27.30 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) 測定月日
	21.59	0.80	0.80	盛土(礫混じりシルト)(BS)	淡灰			堤体盛土 礫混じりシルト主体である 礫はφ20～40mm程度の円,亜円礫である 0.6m以深はやや砂質を帯びる		
1	20.04	1.55	2.35	シルト(M)	淡茶灰		軟らかい	粘性やや大きく,含水中位である 1.8～2.0m間はややローム質(二次堆積土)を呈す		
3	17.39	2.65	5.00	礫混じり粗砂(CS-G)	褐灰	緩い		混入する礫はφ10～30mm程度の円,亜円礫である 上部3.0m付近まで礫の混入が多い 以深は含水多く,堆積状態はルーズである		02/20 2.92
5	15.69	1.70	6.70	砂礫(GS)	灰褐～淡褐	密な		礫はφ10～40mm程度の円,亜円礫を主体とする 礫間は少量の粘土と粗砂で密に充填されている φ100mm前後の玉石が点在する		
7	14.39	1.30	8.00	礫混じり粗砂(CS-G)	淡灰褐	中ぐらい		混入する礫はφ10～30mm程度の円,亜円礫である 堆積状態はややルーズである		
9	12.29	2.10	10.10	砂礫(GS)	灰褐	密な		礫はφ10～40mm程度の円,亜円礫を主体とする 礫間は粘土および粗砂で充填されるが,所々多く混じるなど不均一である		
11	7.14	5.15	15.25	シルト(M)	淡灰～淡緑灰		非常に硬い	粘性小さく,含水少ない 所々,細砂の挟みがみられる 10.3～10.45m間に細砂を挟む 10.45～11.1m間はやや砂質を帯びている 12.1～12.25m間に細砂挟む 12.25～14.35m間は比較的均質なシルトである 14.35～14.5m間に微細砂を挟む 全体に固結度は高い		
15	6.39	0.75	16.00	粗砂(CS)	暗青灰	密な		φ3～5mm程度の円礫混じりである		
16	6.04	0.35	16.35	シルト(M)	淡灰		非常に硬い	粘性小さく,含水少ない 固結度は高い		

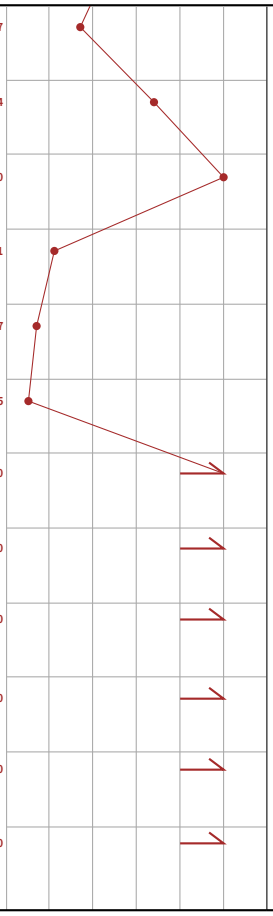
標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0-10	10-20	20-30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1/11	1	1/11	3/32	3
1.47					
2.15	1/20	3		4/30	4
2.45					
3.15	2	2	3	7/30	7
3.45					
4.15	2	3	4	9/30	9
4.45					
5.15	12	15	11	38/30	38
5.45					
6.15	14	16	18	48/30	48
6.45					
7.15	5	3	5	13/30	13
7.45					
8.15	15	10	8	33/30	33
8.45					
9.15	7	8	8	23/30	23
9.45					
10.15	5	6	7	18/30	18
10.45					
11.15	3	5	5	13/30	13
11.45					
12.15	7	4	4	15/30	15
12.45					
13.13	2/12	1/8	2	5/30	5
13.43					
14.15	5	5	7	17/30	17
14.45					
15.15	3	8	14	25/30	25
15.45					
16.15	4	4	9	17/30	17



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
3.15	BL-1	㊀	物理	
3.45				
7.15	BL-2	㊀	物理	02/20
7.45				
				02/22

6.04	0.35	16.35	シルト (M)	淡灰		非常に硬い	粘性小さく,含水少ない 固結度は高い	
3.39	2.65	19.00	礫混じり粗砂 (CS-G)	暗青灰	密な		砂の粒子は不均一 φ5mm程度の円礫が混じる 若干，シルト混じる 密実である	
1.89	1.50	20.50	シルト (M)	淡灰		硬い	粘性小さく,含水少ない 比較的均質である	
0.59	1.30	21.80	粘土 (CH)	褐灰		中位	粘性やや大きい,含水中位である 凝灰質を呈す 21.3m付近にスコリア混じる	
-4.91	5.50	27.30	粘土混じり砂礫 (GS-C)	灰褐	非常に密な		礫はφ10～40mm程度の円,亜円礫を主体とする 礫間は粘土および粗砂で密に充填されている 玉石の混入は少なく,φ100mm前後のものが点在する程度である 掘削水の逸水は少なく,孔壁の自立性は高い	

16.15	4	4	9	17/30	17	
16.45						
17.15	9	12	13	34/30	34	
17.45						
18.15	10	17	23	50/30	50	
18.45						
19.15	3	4	4	11/30	11	
19.45						
20.15	2	2	3	7/30	7	
20.45						
21.15	1/8	2/12	2	5/30	5	
21.45						
22.15	16	24	10/4	50/24	>50	
22.39						
23.15	20	18	12/6	50/26	>50	02/23
23.41						
24.15	37	13/5		50/15	>50	
24.30						
25.15	19	18	13/7	50/27	>50	
25.42						
26.15	28	22		50/20	>50	
26.35						
27.15	40	10/5		50/15	>50	02/24
27.30